

分科会	小5年②	郡市名	岡崎
提案者	岡崎市立城南小学校		尾崎 智佳

1 研究主題『持続可能な社会の実現を目指し、学びを問い合い、自己の責任を考える社会科の授業』
－ 5年「岡崎の森林を守っていこう」の実践を通して－

2 はじめに

岡崎市社会科部では、研究主題『持続可能な社会の実現を目指し、学びを問い合い、自己の責任を考える社会科の授業』を設定し、研究主題を次のようにとらえた。

持続可能な社会の実現を目指す……大量消費社会から循環型社会への転換が求められる現在、これからの社会のあり方を見通し、様々な立場、多様な価値を認め合いながら、よりよく生活できる社会の形成に向けて主体的に考え、参画していく姿勢を育てていくようにする。

学びを問い合う……確かな調べにもとづいて構築した自分の考えが、他者の考えにふれることで、自分の考えの確かさや変容に気づくことができる。そうした過程を経ることで、自分の学びを問い直し、新たな見方や考え方に気づき、自己の考えを深めていくことと考える。

自己の責任を考える……持続可能な社会の実現には、「市民の社会参加」が不可欠である。生活の質の向上を目指して、社会全体や他者とのかかわりを考える中で自分の立場やかかわり方を明確にし、社会の一員として地域社会や自らの生活へ働きかけていくことができることと考える。よりよい社会の形成に向けて、自分は何ができて、どんな行動ができるか考えさせていきたい。

昨年度の研究では、次のような成果が得られた。身近な社会問題（昨年度は地域の防災問題）を取り上げ、出会わせ方を工夫したり、その社会問題の対策を考えたりすることで、子どもたちは切実感をもって意欲的に追究に臨むことができた。また、追究過程において、子どもの意識をとらえて具体的な資料提示をしたり、地域の人へ聞き取り調査をしたりすることは、子どもの確かな考えを導き出すことに有効であった。しかし、学びを問い合い、考えが深まる話し合いのあり方や教師の働きかけが課題として残った。これらの成果と課題を踏まえ、岡崎市社会科部では「学びを問い合う姿の創出を図るかかわり合いの場や教師支援の工夫」を重点課題として、2年次の研究を進めた。

3 研究の基本的な考え

(1) 研究単元の設定理由

昨年度の研究の成果から、本年度も社会問題を題材に、研究を進めていきたいと考えた。本年度は、地域の抱える森林保全の問題を取り上げ、5年「岡崎の森林を守っていこう」を研究単位として実践に取り組んだ。森林は公益的機能を有しており、健康で安全な市民生活を維持していく上にとっても重要なものである。そのため、近年、日本全国で見られる森林の荒廃は新たな公共的な問題として考えられるようになってきた。岡崎市の森林も同じような状況である。このような意味から、地域の抱える森林の問題にふれ、自分の生活とのかかわりを考察しながら森林資源の働きとその保全活動について学んでいくことは、持続可能な社会を形成していく市民としての意識を高めていくことに大きな価値があると考えた。また、現在の森林の保全活動は林業に従事する人だけでなく、ボランティア団体や行政（岡崎市）の機関など、様々な立場の人がそれぞれの考えをもって取り組んでいる。森林保全の対策についてそれらの取り組みを見渡していくことで、話し合いやかかわり合いの場も子どもたちの幅広い自己の考えの形成に効果的に機能していくと考えた。

(2) 目指す子ども像

- 切実感をもって問題意識をもち、意欲的に追究していくことができる子ども
- 自分の学びを問い直し、新たな見方や考え方に気づき、自己の考えを深めていくことができる子ども
- 地域の抱える社会問題に対して自分とのかかわりを考え、社会の一員として地域社会に積極的に働きかけていくことができる子ども

(3) 研究の仮説

- I 地域を抱える社会問題を取り上げて教材開発を行い、その教材との出会わせ方を工夫^①し、その問題に取り組む人にふれ、その人の取り組みに迫る単元の構成^②を図っていけば、子どもたちは切実感を抱いて問題意識をもち、意欲的に追究をしていくことができるだろう。
- II 問題を追究する段階で、子どもの意識をとらえて様々な立場・視点による調べ学習^③を行い、価値判断・意思決定を図る課題でかかわり合いの場を設定^④していけば、子どもたちは実感を伴ったこだわりのある自己の考えを構築し、他者の考えにふれる中で自己の考えを見つめ、新たな見方や考え方に気づき、自己の考えを深めていくことができるだろう。
- III 地域社会に自分の考えを提案・発信する場を設定^⑤したり、学習の流れの中で自分の学びを見つめる自己評価活動を繰り返し^⑥たりしていけば、子どもたちは自分の立場や自己の考えの価値を感じ、社会の一員として自分にできることを考え、地域社会に積極的に働きかけていく姿勢を育んでいくことができるだろう。

(4) 研究の方法

- ①教材との出会わせ方の工夫……岡崎市で取り組まれているリバーヘッド大作戦及び森林ボランティア活動を取り上げ、その活動に従事する人の生の声を聞くことから授業を開始していく。
- ②その社会問題に取り組む人々とのふれあい・交流のある単元構成の工夫……森林の保全活動に従事している人々とかかわる機会を設け、話を聞く機会や聞き取り調査など、追究の段階にかかわる機会を何度も設けて追究を進めていく。
- ③様々な立場・視点による調べ学習の展開……ボランティア活動に取り組む人だけでなく、林業に従事している人や岡崎市（行政）の取り組みを調べる中で、それぞれの立場の森林保全のあり方について考察していく。
- ④価値判断・意思決定を図る課題によるかかわり合いの場の設定……子どもの意識をとらえて、岡崎の森林保全の対策について価値判断・意思決定を図る課題による話し合いの場を意図的に設定していく。その話し合いの場を「おかざき森林会議」と称して取り組むようにする。
- ⑤地域社会に自分の考えを提案・発信する場の設定……岡崎の森林を守るために自分たちができることを考え、地域社会へ具体的に提案・発信していくことを促し、子どもたちの市民意識の高揚とその自覚を高めていきたい。
- ⑥自己評価活動の工夫……子どもの自己有用感を高める工夫として振り返り活動を重視して学習を進めていく。振り返り項目として森林への関心と森林と自分の生活との関係という視点を作り、段階的に自己の学びを自己省察しながら自己評価活動を繰り返していく。

4 実践

(1) 単元の目標

- ・日本や地域の森林の現状に関心をもち、森林資源の働きやその保全のあり方について意欲的に調べ、地域社会の一員として森林資源を守っていこうとする自覚と責任感を高めていくことができる。
- ・森林荒廃の原因や森林保全の重要性及び森林資源を守るためにはどうしていったらよいか、地域の森林の現状や未来の可能性を踏まえて考えることができる。
- ・森林資源の働きやその保全活動に従事する人々の取り組みについて、聞き取り調査や統計資料を活用して調べることができる。
- ・森林は公益的機能を有して重要な働きをしていることやこれからの森林保全は林業（産業）・行政・市民が一体となって協力する必要があることを理解することができる。

(2) 単元の構想………次頁参照

(3) 抽出児童の実態

- 児童A……A男は、授業中はほとんど発言をしない児童である。マンションに住んでおり、自然に対してもあまり関心がなく、むしろ好きではないと言っている。授業を始める段階の森林への関心も低く、自分と森林とのかかわりを考えることもできなかった。
- 児童B……B子は真面目な性格で、何事にも真剣に取り組む児童である。自分の考えをしっかりと持ち、授業中も積極的に発言できる。自分自身何ができるか、具体的な考えまでには及ばなかったが、授業を始める段階より自然や森林を大切にしたいという思いをもっていた。

段階	子どもの活動	教師の活動				
つかむ	リバーヘッド大作戦って何だろう。	<p>〈手立て⑥自己評価1〉 1/14</p> <p>○日本と岡崎の森林の状況</p> <p>○リバーヘッド大作戦 2/14</p> <p>○地域の森林の現状と森林荒廃の様子 3/14</p> <p>○学習計画と見通し 4/14</p> <p>〈手立て⑥自己評価2〉</p> <p>○日本の森林の特色(天然林と人工林)</p> <p>○森林産業に従事する人の仕事と苦勞 5/14</p> <p>○森林荒廃の原因 6/14</p> <p>○水源涵養機能</p> <p>○森林の働きと公的機能について 7/14</p> <p>○自分ができることの考察</p> <p>〈手立て⑥自己評価3〉 8, 9/14</p> <p>○グループ調べ</p> <p>○森林の保全活動に従事している人への聞き取り</p> <p>・「おおだの森保護事業者会」浅井さん</p> <p>・「森林組合」見学</p> <p>・「森の総合駅」見学</p> <p>○取り組む人々の工夫や努力</p> <p>〈手立て⑥自己評価4〉 10/14</p> <p>○それぞれの取り組みの価値</p> <p>○森林環境税</p> <p>11, 12/14</p> <p>○これからの森林保全活動の大切なこと</p> <p>○自分たちができることの考察</p> <p>〈手立て⑥自己評価5〉</p> <p>13, 14/14</p> <p>○パンフレット作り</p> <p>○自分たちができることの提案・行動化</p> <p>〈手立て⑥自己評価6〉</p>				
	岡崎の森林は大丈夫か、地元の人に聞いてみよう。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・岡崎市も額田町と合併して森林面積が多くなった。 ・岡崎も手入れされてない荒れた森林が多くなってきている。 ・岡崎の森林は、このままで大丈夫なのだろうか。 					
	地域の森林を守るために、人々はどのような取り組みをしているのだろうか。					
	岡崎の森林の状況を知って、疑問に思ったことを整理しよう。					
	森林はどうやって手入れされているのだろう。					
	なぜ手入れされていない森林が多くなってきたのだろう。					
	<table border="1"> <tr> <td>外材輸入による国産材の不調</td> <td>林業の高齢化と後継者不足</td> <td>人工林などの森林の手入れ不足</td> </tr> </table>		外材輸入による国産材の不調	林業の高齢化と後継者不足	人工林などの森林の手入れ不足	
	外材輸入による国産材の不調		林業の高齢化と後継者不足	人工林などの森林の手入れ不足		
	森林の働きを調べよう。					
<table border="1"> <tr> <td>木材生産機能</td> <td>水源涵養機能</td> <td>山地災害防止機能</td> </tr> <tr> <td>生活環境保全機能</td> <td>保健文化機能</td> <td>多様な生物生息地</td> </tr> </table>	木材生産機能	水源涵養機能	山地災害防止機能	生活環境保全機能	保健文化機能	多様な生物生息地
木材生産機能	水源涵養機能	山地災害防止機能				
生活環境保全機能	保健文化機能	多様な生物生息地				
<p>おかざき森林会議1</p> <p>岡崎の森林は、このままでよいのか話し合おう。</p>						
<p>岡崎の森林を『元気な森』にするために、どのような取り組みをしているか調べよう。</p> <table border="1"> <tr> <td> <p><森林組合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・間伐による山の手入れと計画的な森林の保護・育成 ・国産材製品の開発と普及 </td> <td> <p><ボランティア団体></p> <p>おおだの森保護事業者会</p> <p>ぬかた炭焼きの会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その活動の内容と苦勞 </td> </tr> </table> <p><岡崎市・森の総合駅></p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の駅や体験施設の建設 ・ネットワーク作りと活動 ・市民参加の機会の提供 	<p><森林組合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・間伐による山の手入れと計画的な森林の保護・育成 ・国産材製品の開発と普及 	<p><ボランティア団体></p> <p>おおだの森保護事業者会</p> <p>ぬかた炭焼きの会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その活動の内容と苦勞 				
<p><森林組合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・間伐による山の手入れと計画的な森林の保護・育成 ・国産材製品の開発と普及 	<p><ボランティア団体></p> <p>おおだの森保護事業者会</p> <p>ぬかた炭焼きの会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その活動の内容と苦勞 					
<ul style="list-style-type: none"> ・山留舞会の浅井さんや森林組合の人たちは、あれた森林を何とかしようといへんな仕事に取り組んでいる。 ・岡崎市も、市民に総合駅や広報を使って森林の大切さを呼びかけたり、森林にふれ合える機会を作ったりしている。 						
<p>おかざき森林会議2</p> <p>岡崎の森林を『元気な森』にするために、今の取り組みで十分かどうか話し合おう。</p> <table border="1"> <tr> <td>—林業の発展—</td> <td>—育成・維持—</td> <td>—森林への関心—</td> </tr> <tr> <td>・人手不足解消</td> <td>・森林の手入れ</td> <td>・意識の普及</td> </tr> </table>	—林業の発展—	—育成・維持—	—森林への関心—	・人手不足解消	・森林の手入れ	・意識の普及
—林業の発展—	—育成・維持—	—森林への関心—				
・人手不足解消	・森林の手入れ	・意識の普及				
<p>おかざき森林会議3</p> <p>岡崎の森林をさらにずっと『元気な森』にするために、岡崎市は「あいち森と緑づくり税」と「森林ボランティア」のどちらを重視してこれから取り組んでいくべきか話し合おう。</p> <table border="1"> <tr> <td>公共政策の必要性</td> <td>ネットワーク作り</td> <td>個人意識の向上</td> </tr> </table>	公共政策の必要性	ネットワーク作り	個人意識の向上			
公共政策の必要性	ネットワーク作り	個人意識の向上				
<ul style="list-style-type: none"> ・荒れた森林の整備には長い年月とお金がかかる。だから、みんながお金を出し合って取り組むことが重要だ。 ・お金を出すだけでなく、一人ひとりが地元の森林や未来の人のことまで考えて活動に取り組むことが重要だ。 						
<p>岡崎市に住む人々に岡崎の森林を守っていくことの大切さと自分たちができていることを伝えるパンフレットを作ろう。</p>						
<ul style="list-style-type: none"> ・これからの森林の保護・育成は森林組合・岡崎市(行政)・市民が一体となって、みんなで守っていかないといけない。 ・未来のことを考えて自分も行動していかないといけない。 						
さぐる						
ふかめる						
いかす						